

## 第2章

## 基本理念



## 上越市ならではの快適で幸せな暮らしの実現 ～生きる力を備えたまちづくり・ひとづくり～

当市を取り巻く社会経済環境の変化などの将来予測を踏まえつつ、第6次総合計画に対する政策・施策の評価検証の結果とともに、市民の声アンケートやグループインタビュー、まちづくり市民意見交換会等を通じて聴取した市民の意見を踏まえ、令和22（2040）年頃を目安とする、当市の将来の理想的なありたい姿を整理しました。

そして、将来にわたって大切にしたい当市の強みや魅力を重ね合わせて検討する中で、上記のとおり、一つのフレーズに取りまとめ、本計画におけるまちづくりの根本に据える基本理念として決めました。

### 豊かな自然と先人の努力が育んだもの

全国有数の豪雪地帯である当市において、人々は、日々の暮らしの傍らにある自然に畏怖の念を抱きながら、四季折々の美しさに生きる喜びを感じ、その中で育まれた恵みをいかした食を堪能するなど、季節に寄り添った当地ならではの暮らしを、あまた享受してきました。

また、先人たちの努力の積み重ねにより、上杉謙信公の居城であった春日山城を始めとした当地ならではの奥深い歴史や文化が培われ、その精神性が、連綿と受け継がれるとともに、私たちの中には、雁木に象徴される雪国の暮らしや古から当地の生業を支えてきた農業を通じて、思いやりや支え合い、助け合いの精神が、今もなお宿っています。

このような、多彩なまちの魅力と人々に宿る他者を思う心は、この地に住む私たちにとって、かけがえのない大切な財産ということができます。



### 持続可能な社会を未来へ引き継ぐ

一方、現代社会に目を向けると、急速に進む人口減少や少子高齢化に伴い、核家族化や地域のつながりの希薄化が進み、加えて、激甚化・頻発化する自然災害や、国際紛争による世界・国内・地域経済への影響など、社会経済環境の急激かつ複雑な変化とともに、人々の価値観・ライフスタイルの多様化も相まって、まさに時代の大きな転換期に直面しており、将来に向けた確かな展望を見出していくことが極めて難しい状況となっています。

こうした先行きの見通しが困難な時代だからこそ、上越市ならではの普遍的な価値を大切にしながら、まちや人の力を育むとともに、<sup>ウェルビーイング</sup>「Well-being」の考え方にあるような、市民の幸福感を高め、持続可能な社会を創り、未来に引き継いでいくことが、今を生きる私たちの責務であると考えます。

### 新しい時代を切り開くのは「ひと」

そのためには、市民一人一人が他者や社会とのつながりを実感する中で、誰一人取り残されることなく、自分らしく健やかに生きていくことができる環境を整えていくことが必要となってきます。

さらには、そうした環境を下支えしていくものとして、当市の強みである多様な地域資源や産業に磨きをかけ、自給力や地域内循環の強化、都市の強靱化を図るとともに、様々な主体による協働<sup>\*</sup>に加え、共創<sup>\*</sup>によって新たな価値を創造していくことなどにより、想定外の事態に対しても、しなやかに、かつ力強く対応し、予測困難な時代を確実に生き抜いていく力を備えた「まち」の仕組みと形を形成していくことが必要と考えます。

そして、新しい時代を切り開いていくのは、いつの時代も「ひと」です。人の英知の積み重ね、挑戦の繰り返しがイノベーション<sup>\*</sup>（革新）を生み出します。多様性と包摂性が尊重される中で、生涯にわたり、あらゆる場面で、あらゆる「ひと」が輝くことができる地域を確立していくことが大切となってきます。

このように、社会・文化・自然の豊かさや人情味あふれる気質・風土を当地ならではのものとして、将来にわたって引き継ぎながら、全ての市民が他者との結び付きを実感し、誰一人取り残されることなく、安心感や幸福感、満足感に包まれ、自分らしく健やかに暮らし、のびやかに学ぶことができる地域社会を形成していく、また、まちの持続的な発展を確実なものとしていく、そうした思いを「上越市ならではの快適で幸せな暮らしの実現～生きる力を備えたまちづくり・ひとづくり～」と表現しました。

#### ウェルビーイング 「Well-being」とは

身体的、心理的、社会的に良好で、全てが満たされた状態にあること。健康、幸福感、つながりが良好な状態にあることを意味しています。